

# 5 ホメオパシー

## 1 サマリー

### 1. ホメオパシーの概要

ホメオパシーは、約 200 年前にドイツ人の医師サミュエル・ハーネマンが体系化した医療であり、2つの基本原則がある。①類似の原則：ある症状で苦しんでいる人に、健康な人に与えた場合に同じような症状を引き起こす物質〔ホメオパシー薬（レメディ）〕を投与すること。②最小限で効果的な投与を行うこと：ある原料をレメディにする過程で非常に高い希釈率で薄め、心身に悪影響を及ぼさず、自然治癒力に働きかける作用のみを得るようにして、患者の治療を行うこと。このようにして、ホメオパシーは、体に備わっている自然治癒力に働きかけ、患者が全体のバランスを取り戻しながら回復すると考えられている。

レメディは 3,000 種以上あるが、なぜ効くのかはいまだ解明されておらず、世界で 170 以上の無作為化比較試験や、多くの研究論文が報告されている<sup>1)</sup>。ホメオパシーは、現在世界の 80 カ国以上で用いられ、特に欧州では約 30% の人がセルフケアとして利用し、欧米人の 75% がホメオパシーを認知している。ホメオパシーを行う治療者は、フランス、オーストリア、ハンガリー、ロシアなど、法的規制のもとに医師のみが行う国と、英国など法的規制のない国や、ドイツのように独自の形態を取っている国がある。日本では、なんら規制がないのが現状である。

### 2. 使用上の一般的な注意事項

疾患に対する医学的知識や臨床経験をもっている治療者から投与されたホメオパシーのレメディ自体は安全であることが多い。しかし、レメディを誤って使用し、新生児が死亡した症例も報告されている<sup>2,3)</sup>。こうした事例を受けて日本学術会議は、2010 年に会長談話として、『ホメオパシーの治療効果は科学的に明確に否定されています。それを「効果がある」と称して治療に使用することは厳に慎むべき行為です』と発表している。また、2000 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日の PubMed での検索結果では、ホメオパシーが、がんの縮小や生存率向上に寄与したとする論文はなかった。

こうしたことを踏まえ、ホメオパシーは慎重に行わなければならない。

### 3. 論文報告（エビデンス）における課題

- ・患者背景が臨床試験ごとに異なる。
- ・対照群の設定が研究ごとに異なる。
- ・ほとんどの報告が小規模な試験である。
- ・アウトカムの評価方法が臨床試験ごとに異なる。

- ・長期的な効果の調査が不十分である。
- ・今後、ホメオパシーのエビデンスを示すためには、さらなる研究が必要である。

#### 4. 論文報告としてはないものの、「教科書に記載されている」「すでに一般的に知られている」といった副作用や禁忌事項（＝グッドプラクティスポイント：GPP）

ホメオパシーでの副作用的反応では、アグラベーションとプルービングに注意が必要である。

アグラベーションは、病状が回復する前に一時的に悪化するという状態に使われる。これは全体の10%程度でしか起こらない。本来、アグラベーションが起こらずに回復するのが望ましく、これが起きたらホメオパシーをいったん中止すべきである。もし回復中の一時的な悪化でなければ病状の悪化であり、そのままホメオパシーを続ければ、前述のような最悪の事態を招く可能性がある。

次にプルービングは、本来、「試験」という意味である。ハーネマンは、健康な人にレメディを投与して、引き起こされた症状を記録し、薬効を決めた。現在でも、レメディを服用することで、それが持つ像（症状）が引き起こされる可能性がある。健康な人がレメディを服用したり、誤ったレメディを飲めば、新たな症状（レメディが持つ症状）の出現の可能性があり危険である<sup>1)</sup>。

#### 5. 文献検索の条件

[検索データベース] PubMed

[検索キーワード] 「Homeopathy」

[検索期間] 2000年1月1日～2014年12月31日

[検索日] 2015年1月12日

[検索式]

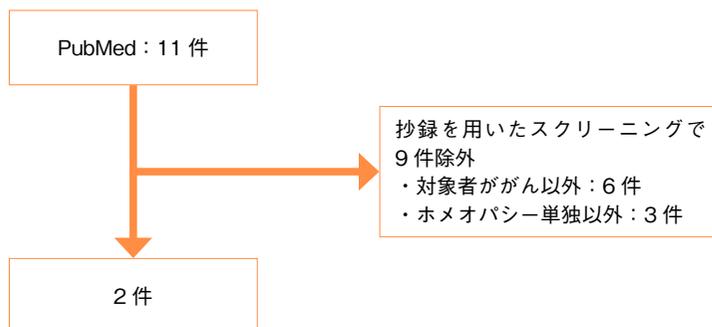
- ▶ システマティックレビュー：11件

Homeopathy AND (cochrane database syst rev[ta] OR meta-analysis[pt] OR meta-analysis[ti] OR systematic review[ti]) AND Cancer AND 2000/01/01[dp]: 2014/12/31[dp]

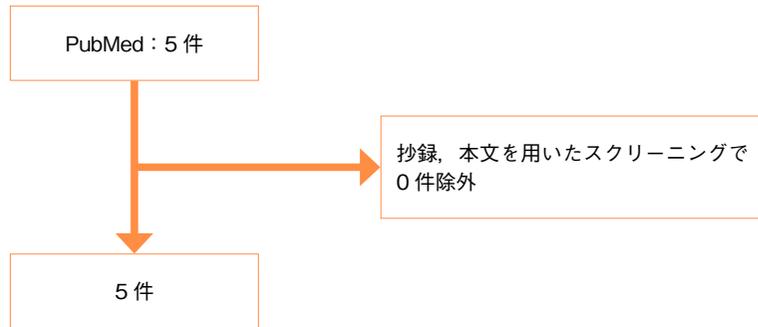
- ▶ 無作為化比較試験：5件

Homeopathy AND (Randomized Controlled Trial[pt] OR Randomized Controlled Trial[ti] OR Randomised Controlled Trial[ti]) AND Cancer AND 2000/01/01[dp]: 2014/12/31[dp]

#### ●文献検索とスクリーニングのフローチャート（システマティックレビュー）



## ●文献検索とスクリーニングのフローチャート（無作為化比較試験）



## 【文献】

- 1) 日本ホメオパシー医学会ホームページ. <http://www.jpsh.jp/>
- 2) 河上 早, 金涌佳雅, 原田一樹, 他. ホメオパシー治療下で, 下痢・嘔吐の放置による脱水・低体重で死亡したアトピー性皮膚炎罹患児の剖検例. 防衛医大誌 2014; 39: 122-6
- 3) 下村麻衣子, 松重武志, 井上裕文, 他. ホメオパシーに起因したビタミン K 欠乏性頭蓋内出血の 1 例. 小児科臨床 2011;64:1699-1702

## 2 臨床疑問

### ▶ 臨床疑問 5-1

ホメオパシーは、がんに伴う身体症状を軽減するか？

#### 1 痛み

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 2 消化器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 3 呼吸器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 4 泌尿器症状

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 5 倦怠感

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 6 睡眠障害

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 7 その他

本臨床疑問に関連するシステマティックレビューはないが、無作為化比較試験が2件ある。

Jacobsら<sup>1)</sup>による無作為化比較試験では、手術、抗がん剤、放射線治療を完了した乳がんの女性のホットフラッシュに対して、プラセボと比較して、ホメオパシーが有用であったことを示す確証はないと結論している。しかし、全体的健康感の指標は改善する可能性があるとして述べている。

Thompsonら<sup>2)</sup>による無作為化比較試験では、乳がんサバイバーにおけるエストロゲン減少の症状に対して、プラセボと比較して、ホメオパシーが有用であったことを示す確証はないと結論している。

以上より、乳がん患者に対して、ホメオパシーによるホットフラッシュを含めたエストロゲン減少の症状を改善させる効果に対する根拠はない。

## ▶ 臨床疑問 5-2

ホメオパシーは、がんに伴う精神症状を軽減するか？

## 1 不安

現時点で、本臨床疑問に関連するシステムティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

## 2 抑うつ

現時点で、本臨床疑問に関連するシステムティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

## 3 その他

現時点で、本臨床疑問に関連するシステムティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

## ▶ 臨床疑問 5-3

ホメオパシーは、全般的な QOL を改善するか？

本臨床疑問に関連するシステムティックレビューが1件ある。

Milazzo ら<sup>3)</sup>によるシステムティックレビューでは、ホメオパシーにはがん治療における効果（がんと闘うための体力増強，身体的・精神的な健康の改善，病気や治療の結果起こる痛みの緩和）を示す十分な確証はないと結論している。

以上より、がん患者に対してホメオパシーは、従来の治療のみを行った群と比較して、全般的な QOL のうち、がんと闘うための体力増強，身体的・精神的な健康の改善，病気や治療の結果起こる痛みを改善させる根拠はない。

## ▶ 臨床疑問 5-4

ホメオパシーは、何らかの望ましくない有害事象を引き起こすか？

現時点で、本臨床疑問に関連するシステムティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

## ▶ 臨床疑問 5-5

ホメオパシーは、検査・治療等に伴う有害事象を軽減するか？

本臨床疑問に関連するシステムティックレビューが1件、無作為化比較試験が3件ある。

Kassab ら<sup>4)</sup>によるシステムティックレビューでは、ホメオパシー薬(Calendula)が放射線治療中の急性皮膚炎を予防する可能性があるかと結論している。また、化学療法による口内炎がホメオパシー薬(Traumeel S)により改善する可能性があるかと述べている。

Pérol ら<sup>5)</sup>による無作為化比較試験では、標準的な悪心予防に複合ホメオパシー薬(Cocculine)を追加することは、早期乳がん患者における抗がん剤による悪心・嘔吐の予防には効果がないと結論している。

Oberbaum ら<sup>6)</sup>による無作為化比較試験では、ホメオパシー薬(Traumeel S)が骨髄移植を受けた小児の口内炎の苦痛と病悩期間を改善する可能性があるとして述べている。

Balzarini ら<sup>7)</sup>による無作為化比較試験では、放射線治療における皮膚炎において、皮膚の熱感に対しては、ホメオパシー薬(Belladonna, X-ray)によって改善する可能性があるとして述べている。

以上より、がん患者に対してホメオパシーは、プラセボと比較して、口内炎や放射線治療における皮膚炎を軽減させる可能性があると考えられる。一方で、抗がん剤による悪心・嘔吐の予防を軽減させる根拠はない。

### ▶ 臨床疑問 5-6

ホメオパシーは、予後を改善するか？

#### 1 全生存率 (total mortality)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 2 原因特異的死亡率 (cause-specific mortality)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

#### 3 無病生存率 (disease-free survival), 無増悪生存率 (progression-free survival), 奏効率 (tumor response rate)

現時点で、本臨床疑問に関連するシステマティックレビューおよび無作為化比較試験の報告はない。

(遠藤光史)

### 【文 献】

- 1) Jacobs J, Herman P, Heron K, et al. Homeopathy for menopausal symptoms in breast cancer survivors: a preliminary randomized controlled trial. *J Altern Complement Med* 2005; 11: 21-7
- 2) Thompson EA, Montgomery A, Douglas D, et al. A pilot, randomized, double-blinded, placebo-controlled trial of individualized homeopathy for symptoms of estrogen withdrawal in breast-cancer survivors. *J Altern Complement Med* 2005; 11: 13-20
- 3) Milazzo S, Russell N, Ernst E. Efficacy of homeopathic therapy in cancer treatment. *Eur J Cancer*. 2006; 42: 282-9
- 4) Kassab S, Cummings M, Berkovitz S, et al. Homeopathic medicines for adverse effects of cancer treatments. *Cochrane Database Syst Rev* 2009; 15: CD004845
- 5) Pérol D, Provençal J, Hardy-Bessard AC, et al. Can treatment with Cocculine improve the control of chemotherapy-induced emesis in early breast cancer patients? A randomized, multi-centered, double-blind, placebo-controlled Phase III trial. *BMC Cancer* 2012; 12: 603
- 6) Oberbaum M, Yaniv I, Ben-Gal Y, et al. A randomized, controlled clinical trial of the homeopathic medication TRAUMEEL S in the treatment of chemotherapy-induced stomatitis in children undergoing stem cell transplantation. *Cancer* 2001; 92: 684-90
- 7) Balzarini A, Felisi E, Martini A, et al. Efficacy of homeopathic treatment of skin reactions during radiotherapy for breast cancer: a randomised, double-blind clinical trial. *Br Homeopath J* 2000; 89: 8-12